1 沿　　革

1 沿革概要

品川区は東経 139度45分，北緯35度37分に位し，面積は 16.04平方粁で，東は東京湾に面し低地である。北は港区西は目黒区南は大田区に接し，品川駅より西方におよび丘陵地帯があって荏原地区に連がる。荏原区域は概ね盆地である。

明治11年，品川歩行新宿は北品川宿と連合し南品川宿は南品川猟師町，南品川利田新地，二日五日市の3ケ村と連合した。

明治22年町村制施行と同時に6ケ村を合併して品川町と称した。明治23年下大崎村，上大崎村，居木橋村，桐ケ谷村，白金猿町が合併して大崎村となり，明治41年に大崎町と称した。又同年大井村は大井町と称した。

大正15年に平塚村は平塚町となり，昭和2年7月1日に荏原町と改称した。

この間明治22年に東京市が誕生し政治的，経済的に中枢をなす帝都として，東京市及びその近郊の町村は有機的つながりをもっていた。とくに大正12年の関東大震災後は，郊外電車が発達し都心地より郊外地に移り住む人が急激に増加して，田畑は住宅地となり，荒地は切り開かれた。

大正14年目黒川の改修工事の一部として目黒河口の土砂をもって，品川海岸の埋立工事が施行され現在の東品川町，天王洲町，勝島町と年々埋立工事が進められたのである。

ことに品川町，大崎町，大井町は東京・横浜間の要路に位し，工業の勃興によって，京浜沿線埋立地及び目黒川・立会川沿いに工場地帯が形成され，大小工場が相次いで起り，いわゆる京浜工業地帯の一翼としての役割を担ったのである。

かくして市域拡張による大東京建設の計画が進められたのは当然の事であって，昭和7年(1932年)10月1日東京市は隣接5郡の82町村を市域に併合し，旧15区のほかに新たに20区を加えて35区とした。これにより荏原郡品川町，大崎町，大井町の地域をもって品川区とし，荏原郡荏原町の地域をもって荏原区となった。

かくて産業経済の発達と共に人口は年々増加の一途をたどり，昭和15年10月1日の国勢調査には人口 419,403人となり，昭和18年10月1日に東京府と東京市が併合し，東京都制が施行されたが，品川区，荏原区は従来どおりであった。しかしながら，昭和19年11月から20年8月15日の終戦に至るまでに被った戦争被害は，人的・物的には関東大震災をはるかにしのぎ，品川区もその大半が戦火をうけて灰尽に帰してしまったのである。したがって戦後最初の昭和20年11月1日の人口調査には，品川区と荏原区を併せても人口 143,490人と減少し，一時は全く絶望の深淵に投ぜられたのである。その後，昭和22年4月地方自治法が公布され東京都特別区制の施行のため，同年35区から23区に統合され，品川区と荏原区は合併されて新しい品川区が発足した。

かかるとき転入・復員・引揚等により人口も漸次増加し，区民はこの灰虚の中から新しい品川区建設を目ざして立ち上ったのである。かくして希有の災害から立ち直り，戦前をしのぐ京浜工業地区と

して復活し，品川区は著じるしい復興を見せた。

昭和35年10月１日の国勢調査の人口は実に 427,780人と激増し，住宅地域及び各駅前には商店街が，めざましい勢おいで発展した。とくに大消費地帯として五反田駅周辺，大井町駅周辺，武蔵小山駅周辺は大繁華街が造成された。

かくして戦災復興と首都建設は品川区を海に向って発展させ，昭和24年12月に勝島町埋立地に大井競馬場が開設され，同年東京港修築工事計画の一環として，26年２月に天王洲地先に 838,310平方米の品川ふ頭建設の埋立が終った。このふ頭が完成すれば岸壁は 500米で一万屯級の船舶３隻位が接岸できる。又同地に品川火力発電所が建設され36年12月に竣工， 375KWの発電力をもって京浜工業地帯の電力供給を豊かにした。

次いで勝島町の先に 238万平方米の大井ふ頭埋立工事が進められている，ふ頭完成のあかつきは２，３万屯級の船舶の接岸が可能となる。このように都市化の進行と人口の増加は，必然的に区民の文化・福祉・厚生の諸施設が要求され，各地区に児童会館，児童図書館，敬老会館，区営質屋，野球場，庭球場，弓道場，児童遊園地等が年を追って新設された。

31年には大井町駅前に品川公会堂・品川文化会館が建設された。ついで34年に品川体育館・品川福祉センターが新改築されて開館した。さらに33年より着手した鮫洲入江の埋立は完了し，近く総合グランドと公園をかねた鮫洲運動公園が完成する。又37年５月に大井福祉センターが新築開館したほか，現在荏原福祉センターを建設中で38年３月完成するほか，さらに38年６月落成予定で地下１階地上４階鉄筋コンクリート建図書館の改築工事が進められている，そのうえ文化会館の増築・公園・街路灯の整備等々により，多くの区民に喜こばれ大いに利用されている。

ことに品川は徳川時代より交通の要衝であって，第一京浜国道，第二京浜国道，中原街道と重要な道路が区内を貫通しており，特に39年オリンピック開催に備えて，海岸沿に都心と羽田空港とを結ぶ，首都高速道路第一号線が緊急建設されておる等，さながら品川は京浜間の廊下である。

ついで鉄道・電車も東海道本線，京浜東北線，山手線，品鶴線及び京浜急行線，東急大井町線，東急池上線，東急目蒲線等国鉄・私鉄が縦横に走っており，都心より地下鉄の延長と相まって，品川区は正に東京都の海陸両方面の表玄関となり，日本経済・文化の門戸として発展の一途をたどっているのである。